

8 環境に及ぼす影響の内容及び程度並びにその評価

8.5 地盤

8.5 地盤

8.5.1 現況調査

(1) 調査事項及びその選択理由

地盤の現況調査の調査事項とその選択理由は、表 8.5-1に示すとおりである。

表 8.5-1 調査事項及びその選択理由：地盤

調査事項	選択理由
①地盤の状況 ②地下水の状況 ③地盤沈下又は地盤の変形の状況 ④土地利用の状況 ⑤法令による基準等	<p>工事の施行中において、掘削工事及びそれに伴う山留壁の設置により、地盤の変形並びに、地下水の水位及び流況の変化とそれに伴う地盤沈下の影響が考えられる。</p> <p>また、工事の完了後（地下く体工事完了後）においては、地下構造物の存在により、地盤の変形並びに、地下水の水位及び流況の変化とそれに伴う地盤沈下の影響が考えられる。</p> <p>以上のことから、計画地について、左記の事項に係る調査が必要である。</p>

(2) 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

(3) 調査方法

ア 地盤の状況

(7) 既存資料調査

既存資料を整理・解析した。

(4) 現地調査

a 調査期間

平成28年6月6日から7月4日まで実施した。

b 調査地点

調査地点は、図 8.5-1に示すとおり計画地内の4地点とした。

c 調査方法

調査地点において、ボーリング調査（標準貫入試験・現場透水試験・室内土質試験）及び既存資料の整理・解析を行った。

イ 地下水の状況

(7) 既存資料調査

既存資料を整理・解析した。

(4) 現地調査

a 調査期間

平成28年8月1日から平成29年7月31日まで実施した。

b 調査地点

調査地点は、図 8.5-1に示すとおり、不圧地下水、被圧地下水について計画地内の各4地点とした。

c 調査方法

調査は、表 8.5-2に示す観測井を設置し、地下水位を測定した。水位測定は自動水位計による連続観測とした。

表 8.5-2 観測井設置構造一覧

地下水	調査地点	塩ビ管径 (mm)	深さ (m)	ストレーナー (m)	無孔部 (m)	地盤高 (A.P.) (m)	観測方法
不圧	①-B	51	10	7	3	2.65	自動水位計
	②	51	6	4	2	2.33	
	③	51	6	4	2	2.09	
	④	51	7	4	3	3.46	
被圧	①-A	51	28	16	12	2.44	
	②	51	28	16	12	2.33	
	③	51	28	16	12	2.09	
	④	51	28	16	12	3.46	

ウ 地盤沈下の状況

既存資料を整理・解析した。

エ 土地利用の状況

既存資料を整理・解析した。

オ 法令による基準等

関係法令等を調査した。

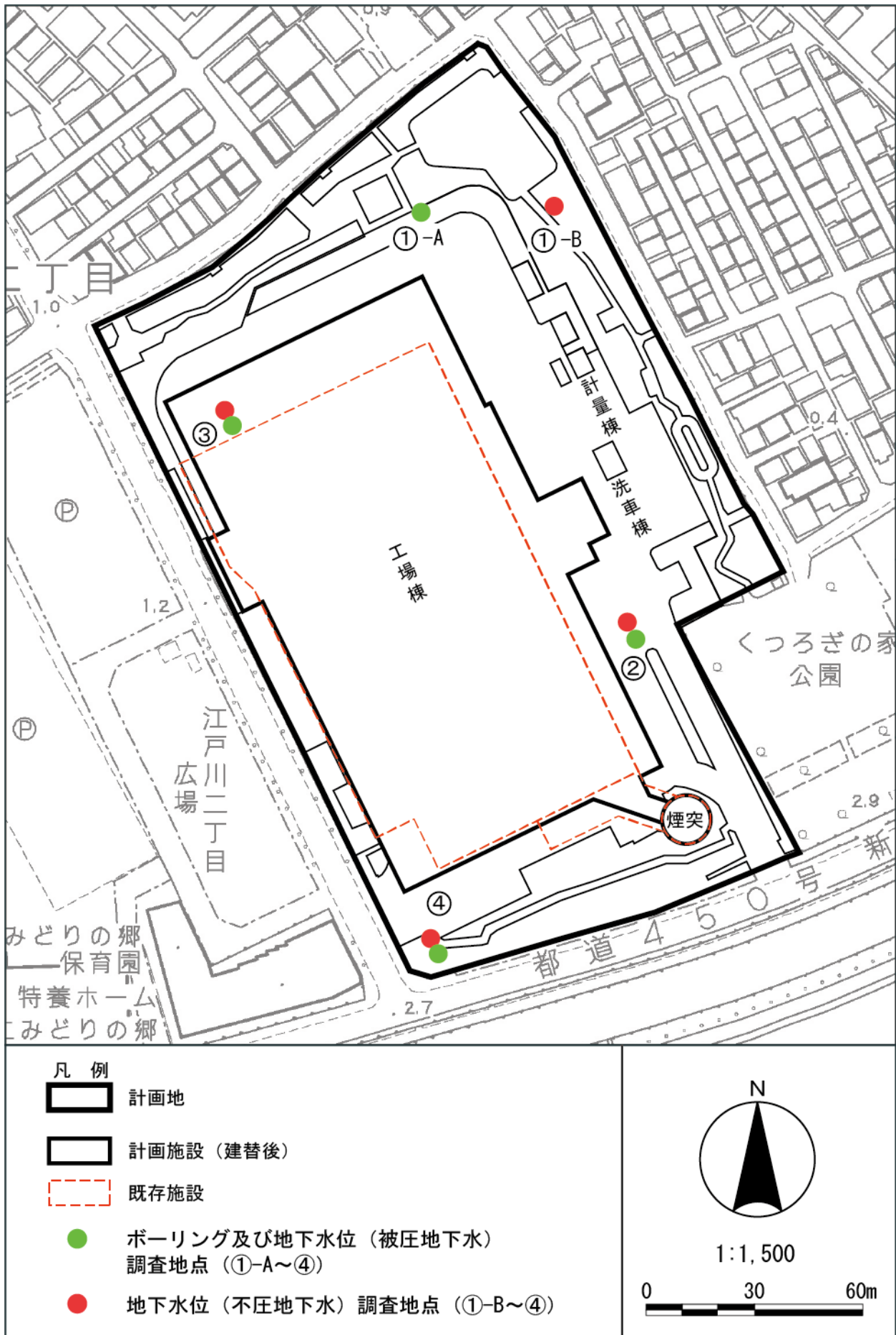


図 8.5-1 ボーリング調査及び地下水位調査地点